

# 四半期報告書

(第135期第3四半期)

横浜ゴム株式会社

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
3 【関係会社の状況】 .....	3
4 【従業員の状況】 .....	3
第2 【事業の状況】 .....	4
1 【生産、受注及び販売の状況】 .....	4
2 【事業等のリスク】 .....	5
3 【経営上の重要な契約等】 .....	5
4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	5
第3 【設備の状況】 .....	10
第4 【提出会社の状況】 .....	11
1 【株式等の状況】 .....	11
2 【株価の推移】 .....	12
3 【役員の状況】 .....	13
第5 【経理の状況】 .....	14
1 【四半期連結財務諸表】 .....	15
2 【その他】 .....	33
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	34

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年2月14日

【四半期会計期間】 第135期第3四半期(自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)

【会社名】 横浜ゴム株式会社

【英訳名】 The Yokohama Rubber Company, Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 南 雲 忠 信

【本店の所在の場所】 東京都港区新橋5丁目36番11号

【電話番号】 東京(03)5400-4520

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員 経理部長 森 田 史 夫

【最寄りの連絡場所】 東京都港区新橋5丁目36番11号

【電話番号】 東京(03)5400-4520

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員 経理部長 森 田 史 夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄3丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第134期 第3四半期連結 累計期間	第135期 第3四半期連結 累計期間	第134期 第3四半期連結 会計期間	第135期 第3四半期連結 会計期間	第134期
会計期間	自 平成21年 4月1日 至 平成21年 12月31日	自 平成22年 4月1日 至 平成22年 12月31日	自 平成21年 10月1日 至 平成21年 12月31日	自 平成22年 10月1日 至 平成22年 12月31日	自 平成21年 4月1日 至 平成22年 3月31日
売上高 (百万円)	344,020	390,408	141,954	152,123	466,358
経常利益 (百万円)	14,441	18,903	18,113	15,341	18,744
四半期(当期)純利益 (百万円)	9,044	11,322	12,975	10,111	11,486
純資産額 (百万円)	—	—	156,819	168,656	163,382
総資産額 (百万円)	—	—	475,599	483,215	466,973
1株当たり純資産額 (円)	—	—	456.50	483.85	475.26
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	26.98	33.79	38.71	30.18	34.27
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	—	—	32.17	33.55	34.11
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	18,769	17,798	—	—	49,845
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△17,706	△13,571	—	—	△25,230
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△5,014	3,468	—	—	△29,434
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	—	—	12,302	23,163	11,558
従業員数 (人)	—	—	17,281	17,975	17,566

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

### 3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、国内工業品販売会社である横浜ゴムMBE(株)等8社(連結子会社)は、平成22年10月1日に合併し、横浜ゴムMBジャパン(株) (連結子会社)となりました。

名称	住所	資本金又は出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合 (%)	関係内容			
					役員の 兼務等	資金援助	業務上 の取引	設備の 賃貸借状況
(連結子会社) 横浜ゴムMBジャパン(株)	東京都品川区	167	工業品	100.0	あり	なし	当社製品の販売先	土地・建物・設備の一部を賃貸

(注) 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報の名称を記載しております。

### 4 【従業員の状況】

#### (1) 連結会社の状況

平成22年12月31日現在

従業員数(人)	17,975
---------	--------

(注) 従業員数は就業人員数であります。

#### (2) 提出会社の状況

平成22年12月31日現在

従業員数(人)	5,474 (822)
---------	-------------

(注) 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数は( )内に当第3四半期会計期間の平均人員を外数で記載しております。なお、臨時従業員数には、季節工及びパートタイマーを含み、派遣社員を除いております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
タイヤ事業	74,120	—
工業品事業	17,591	—
その他	3,848	—
合計	95,561	—

- (注) 1 金額は、販売価格を基礎として算出しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 受注状況

当社は、ごく一部を除いてすべて見込生産であります。

#### (3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
タイヤ事業	125,299	—
工業品事業	20,991	—
その他	5,832	—
合計	152,123	—

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

## 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間における世界経済は、一昨年からの危機的状況から脱し、緩やかな回復基調となりました。しかしながら、わが国においては、期間を通して急激な円高であったため、特に輸出型企業において回復の足取りに陰りがみられました。タイヤ業界も、全世界的にみれば需要が持ち直し、回復基調にあります。日本国内に目を向ければ、円高に加え、原材料価格が高騰する等、決して油断することのできない厳しい環境にあります。

こうした状況のもと、当社グループは、気を緩めることなく、積極的な販売活動ならびに徹底した経費削減等の内部改善に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結会計期間の連結売上高は1,521億23百万円(前年同期比 7.2%増)、連結営業利益180億71百万円(前年同期比 8.1%減)、連結経常利益は153億41百万円(前年同期比 15.3%減)、連結四半期純利益は101億11百万円(前年同期比 22.1%減)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ① タイヤ事業

当第3四半期連結会計期間のタイヤ事業の売上高は、1,252億99百万円となり、当社グループの総売上高の82.4%を占めております。

国内市販用タイヤの販売は、販売量・売上高ともに前年同期を上回りました。低燃費タイヤ「BluEarth AE-01(ブルーアース エーイーゼロワン)」、スタッドレスタイヤ「ice GUARD TRIPLE PLUS(アイスガード トリプル プラス)」、輸入車向け「ADVAN Sport(アドバン スポーツ)」、高級大型ミニバン向け「DNA GRAND map(ディー・エヌ・エー グランドマップ)」の売上げが伸張したことによるものです。お客様に、当社製品の基本性能に加え、「ころがり抵抗低減」という低燃費性を高く評価していただけたことによるものと認識しております。さらに、トラック・バス用タイヤについても、低燃費指向スタッドレスタイヤ「ZEN 902ZE(ゼン・キューマルニ・ゼットイー)」が、高い耐磨耗性とそれを損なわない低燃費性で、多くのお客様から支持をいただくことができました。

国内新車用タイヤの販売は、前期、エコカー補助金終了に伴う駆け込み需要が満たされた反動で、当期は国内向け新車販売量が減少し、当社グループもその影響を受けました。しかし、当社グループは、新型車への新規装着サイズを増加させることで、影響を最小限に食い止めました。

海外市販用タイヤの販売は、全世界的に需要が順調に回復しました。特に、北米、中南米、中国を中心に、販売が順調に推移しました。そして、為替変動の影響があったにもかかわらず、売上高も前年同期を上回りました。当社グループは、2011年1月から、最高峰コンフォートタイヤ「ADVAN dB(アドバン デシベル)」を、日本国外でも販売開始しました。同製品は、ラグジュアリーカーにふさわしい優れた走行安定性や高い剛性、快適な乗り心地を実現すると同時に、環境性能をも併せ持った、新世代のコンフォートタイヤです。当社グループは、これからも、積極的な販売活動を展開してまいります。

また、当社グループは、これまでもポルシェ、メルセデス、アウディ等の海外高級自動車メー



カーに新車装着用タイヤを納入してまいりました。中でも、アウディに対しては、最上級モデルSシリーズのS6、S8、大型高性能SUVのQ7に引き続き、今期より、A7スポーツバックにも「ADVAN Sport (アドバン スポーツ)」が装着されることとなりました。高級車に相応しい性能を備えたタイヤとして、当社製品が高く評価いただけたためと考えております。

こうした中、当社グループは、ヨコハマタイヤ マニュファクチャリング (タイ) の第3期拡張工事、杭州横浜輪胎有限公司の第4期拡張工事、ならびにLLC ヨコハマ R.P.Z.の新工場の建設に取り組んでおります。いずれも2011年度中に生産を開始する予定であり、当社グループはこれからも世界のタイヤ需要に対応してまいります。

## ② 工業品事業

当第3四半期連結会計期間の工業品事業の売上高は、209億91百万円となり、当社グループの総売上高の13.8%を占めております。

ホース配管事業の売上高は、北米、アジアの活発な需要に支えられ、前年同期を上回ることができました。

工業資材事業の売上高は、景気の回復が製品の需要に反映するまでにタイムラグがあることや為替の影響があったため、前年同期を下回りました。

ハマタイト事業の売上高は、前年同期を上回ることができました。エコカー補助金終了に伴う自動車用販売の苦戦が懸念されておりましたが、住宅市場の改修需要が増加したため、これを吸収することができたことによるものです。

こうした中、当社グループは、10月1日に、国内での工業品販売会社8社及び横浜ゴムの工業品販売部門の一部機能を統合した新会社、横浜ゴムMBジャパン(株)を設立しました。お客様に近い販売会社の営業力とメーカーのバックアップ機能を統合し、一体感を持った組織運営、意思決定のスピードアップによる顧客満足度の向上をはかり、顧客目線の営業実現に取り組んでまいります。

## ③ その他(航空部品事業、スポーツ事業等)

当第3四半期連結会計期間のその他の売上高は、58億32百万円となり、当社の総売上高の3.8%を占めております。

航空部品事業は、市場が本格的な回復に至っておらず、量産機・補用品ともに厳しい状況にあり、当社の売上高も、前年同期を下回りました。そのような環境の中でも、当社は、積極的な販売活動とコスト構造の改善を図り、市況の影響を最小限にとどめる努力をいたしました。

スポーツ事業も、ゴルフクラブ市場全体が非常に厳しい状況にあります。しかし、このような状況下でも、当社グループは、新規販路の開拓や既成概念にとらわれないクラブシリーズを開発する等、ビジネスチャンスの拡大を目指した積極的な活動を進めてまいりました。この結果、当期は、前年同期を上回る売上高をあげることができました。

当社グループは、ゴルフクラブだけでなく、フィッティングビジネスの拡大を目指し、ゴルファーのフィッティング診断を通じて最適なクラブ選びをサポートする「SCIENCE FIT (サイエンスフィット)」活動も積極的にすすめております。そして、「SCIENCE FIT (サイエンスフィット)」から得られたデータに基づき、新ゴルフクラブシリーズ「iD (アイ・ディー)」を開発いたしました。iDシリーズは、「ゴルファーの感性 (Inspiration)」と「データ (Data)」を重視した設計コンセプトにより、飛距離性能・精度・打ち易さを実現。12月の販売開始以来、お客様から高く評価され、好評を博しております。

当社グループは、今後も革新的で魅力のある商品づくりに取り組み、お客様のご期待にお応えしてまいります。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」といいます。)は231億63百万円となり、第2四半期連結会計期間末に比べ、30億95百万円増加しました。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間における営業活動による資金の増加は55億9百万円となり、前年同期に比べ27億14百万円の減少となりました。これは主として、税金等調整前四半期純利益の減少によるもので

あります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間における投資活動による資金の支出は51億96百万円となり、前年同期に比べ5億39百万円の支出増加となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出の増加によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間における財務活動による資金の増加は30億39百万円となり、前年同期に比べ77億33百万円の増加となりました。これは主として、借入による収入の増加及びコマーシャルペーパーの増加によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針（「会社支配に関する基本方針」）は以下のとおりであります。

1) 基本方針

当社取締役会は、上場会社として当社株式の自由な売買を認める以上、当社株主の皆様および投資家の皆様による当社株式の売買を妨げることはありません。従って、当社の株式を大量に取得しようとする者が出現した場合にこれを受け入れるかどうかは最終的には当社株主の皆様の意思に委ねられるべきであると考えております。

しかしながら、株式の大規模な取得行為またはこれに類する行為の中には、その目的・態様等から見て企業価値および株主共同の利益を明確に毀損するもの、大規模な取得行為またはこれに類する行為に応じることを対象会社の株主に強要して不利益を与えるおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主に対し大規模な取得行為またはこれに類する行為の内容や当該株式を大量に取得しようとする者についての十分な情報を提供せず、取締役会や株主による買付条件等の検討に要する十分な時間を提供しないもの等、対象会社の企業価値および株主共同の利益の確保・向上を妨げ、個々の株主の皆様の判断に委ねるべき前提を欠くものも少なくありません。

当社は、このように当社の企業価値および株主共同の利益の確保・向上を妨げるような株式の大規模な取得行為を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えており、このような大規模な取得行為に対しては、株主の皆様の事前の承認に基づき、当社取締役会が、法令および定款によって許容される限度において当社の企業価値および株主共同の利益の確保・向上のための相当な措置を講じるべきであると考えております。

当社は、以上をもって、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針といたします。

2) 基本方針の実現に資する取り組み

当社グループは、創業100周年にあたる2017年を見据えた中期経営計画「GD100」を策定し、目標達成に向けた事業戦略を推進します。2009年度から開始したGD100フェーズⅡでは、「高質な成長」をテーマに取り組むと共に、CSR経営を進めております。

さらに、当社は株主の皆様への利益還元を経営上の最重要課題の一つと認識しており、今後も、継続的な安定配当を基本とした上で連結業績の向上に応じた利益還元を実施してまいります。

以上のような中長期的視点に立った各取組みを通じて、グローバルな成長による規模の拡大と業界

トップレベルの高収益体質を実現するとともに、すべてのステークホルダーとの良好な信頼関係を築き、社会への貢献を果たすことが、当社の企業価値および株主共同の利益を確保・向上させることになると考えております。

3) 会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、上記のような会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの一つとして、平成20年5月12日に開催された取締役会において、全取締役の賛成により、当社株式の大規模買付行為に関する対応方針（以下、「本対応方針」といいます。）を決定し、導入いたしました。

本対応方針の概要は以下の通りですが、詳細については当社ホームページ掲載のニュースリリース「当社株式の大規模買付行為に関する対応方針（買収防衛策）について」本文をご参照下さい。また、以下に言及しております「大規模買付行為」、「大規模買付者」の定義についても当該ニュースリリースをご参照下さい。（参考URL <http://www.yrc-pressroom.jp>）。

<本対応方針の概要>

①大規模買付ルールの設定

本対応方針は、大規模買付者に対して大規模買付ルールに従うことを求めるものであります。大規模買付ルールとは、大規模買付行為が開始される前に、大規模買付者に対して、当社取締役会に対する十分な情報提供を要求し、それに基づき当社取締役会がその買付行為の評価・検討や代替案の提示等を行い、かつ、所要の期間が経過して初めて大規模買付行為を開始することを認めるというものであります。

②対抗措置の発動

取締役会は、大規模買付行為に対して当社の企業価値および株主共同の利益を守るために相当と認められる対抗措置を講じることがあります。

この対抗措置は、新株予約権の無償割当て、新株予約権の第三者割当てによる発行、新株の発行等、会社法その他の法律および当社定款が取締役会の権限として認める措置とし、具体的な対抗措置については、その時点で相当と認められるものを選択いたします。

③有効期間

本対応方針については、平成20年5月12日開催の当社取締役会においてその導入を決議し、平成20年6月27日に開催された当社定時株主総会において株主の皆様のご承認を得て効力が生じております。

本対応方針の有効期間は、平成23年6月に開催予定の当社定時株主総会の終了時点までとなっております。但し、かかる有効期間の満了前であっても、①当社の株主総会において本対応方針を廃止する旨の議案が承認された場合、または②当社の取締役会において本対応方針を廃止する旨の決議がなされた場合には、本対応方針はその時点で廃止いたします。

4) 上記の取組みに対する当社取締役会の判断およびその判断に係る理由

当社の新中期経営計画は、中長期的視点から当社の企業価値および株主共同の利益の向上を目指すための具体的方策として策定されたものであり、まさに上記基本方針に沿うものであります。

また、本対応方針は、以下のように合理性が担保されており、上記基本方針に沿うとともに当社の企業価値・株主共同の利益に合致するものであり、当社の役員の地位の維持を目的とするものではありません。

- ① 本対応方針は、大規模買付行為が行われた際に、当該大規模買付行為に応じるべきか否かを株主の皆様が判断するために必要な情報や時間を確保すること等を可能にするものであり、当社の企業価値および株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されるものであります。
- ② 本対応方針は、当社株主総会の議案としてお諮りして株主の皆様の意思を確認させていただくこととし、株主の皆様のご賛同が得られなかった場合には、本対応方針は廃止されることとなります。そのため、本対応方針の消長および内容は、当社株主の皆様の合理的意思に依拠したものとなっております。
- ③ 本対応方針の対抗措置発動等の運用に際して、当社取締役会の恣意的判断を排除し、株主の皆様のために実質的かつ合理的な判断を客観的に行う諮問機関として、当社および当社の経営陣との間に特別の利害関係を有していない社外の弁護士、公認会計士、税理士および学識経験者等、並びに社外の経営者等により構成される独立委員会を設置しております。
- ④ 本対応方針に定める対抗措置は、予め定められた合理的かつ詳細な客観的発動要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な対抗措置の発動を防止するための仕組みを十分に確保しているものといえます。
- ⑤ 当社取締役は、判断の客観性・合理性を担保された独立委員会の勧告を最大限尊重するように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しているものといえます。
- ⑥ 本対応方針は、デッドハンド型買収防衛策(取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、対抗措置の発動を阻止できない買収防衛策)、スローハンド型買収防衛策(取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、対抗措置の発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策)でもありません。

#### (4) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間の研究開発費の総額は3,145百万円であります。

### 第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	700,000,000
計	700,000,000

##### ② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成22年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	342,598,162	342,598,162	東京、大阪、名古屋 各証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 1,000株であります。
計	342,598,162	342,598,162	—	—

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当する事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当する事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当する事項はありません。

#### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成22年10月1日～ 平成22年12月31日	—	342,598	—	38,909	—	31,952

#### (6) 【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

#### (7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日である平成22年9月30日の株主名簿により記載

しております。

① 【発行済株式】

平成22年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,512,000	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 12,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 333,681,000	333,681	—
単元未満株式	普通株式 1,393,162	—	—
発行済株式総数	342,598,162	—	—
総株主の議決権	—	333,681	—

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己保有株式、相互保有株式および株式会社証券保管振替機構名義株式が次のとおり含まれております。

自己保有株式 477株  
相互保有株式 75株 [愛宕精工(株)所有分75株]  
株式会社証券保管振替機構名義株式 200株

② 【自己株式等】

平成22年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 横浜ゴム株式会社	東京都港区新橋5-36-11	7,512,000	—	7,512,000	2.19
(相互保有株式) 愛宕精工株式会社	神奈川県平塚市 田村4-21-18	12,000	—	12,000	0.00
計	—	7,524,000	—	7,524,000	2.19

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	451	463	456	480	473	439	431	441	447
最低(円)	401	394	400	398	377	382	393	392	415

(注) 株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

### 3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。



## 第5 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成22年10月1日から平成22年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間（平成22年10月1日から平成22年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,166	11,560
受取手形及び売掛金	126,651	103,400
商品及び製品	44,007	47,228
仕掛品	7,314	7,522
原材料及び貯蔵品	13,514	12,860
その他	14,412	16,879
貸倒引当金	△905	△915
流動資産合計	228,161	198,537
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	57,499	59,911
機械装置及び運搬具（純額）	66,097	75,908
その他（純額）	53,865	48,132
有形固定資産合計	※1 177,462	※1 183,953
無形固定資産	1,521	1,468
投資その他の資産		
投資有価証券	57,914	59,257
その他	18,925	24,670
貸倒引当金	△769	△913
投資その他の資産合計	76,070	83,014
固定資産合計	255,054	268,436
資産合計	483,215	466,973
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	75,470	69,857
1年内償還予定の社債	—	10,000
コマーシャル・ペーパー	1,000	—
短期借入金	97,085	88,064
未払法人税等	1,197	1,942
役員賞与引当金	62	79
その他	39,724	36,043
流動負債合計	214,539	205,987
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	40,107	36,609
退職給付引当金	16,553	16,912
その他	23,358	24,081
固定負債合計	100,019	97,603
負債合計	314,558	303,591

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	38,909	38,909
資本剰余金	31,952	31,952
利益剰余金	100,718	92,739
自己株式	△4,743	△4,729
株主資本合計	166,836	158,872
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	15,554	16,401
為替換算調整勘定	△20,265	△16,009
評価・換算差額等合計	△4,711	391
少数株主持分	6,530	4,118
純資産合計	168,656	163,382
負債純資産合計	483,215	466,973

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	344,020	390,408
売上原価	237,475	266,839
売上総利益	106,544	123,568
販売費及び一般管理費	※1 89,232	※1 97,223
営業利益	17,311	26,345
営業外収益		
受取利息	92	145
受取配当金	783	868
その他	928	1,155
営業外収益合計	1,804	2,168
営業外費用		
支払利息	2,138	1,804
為替差損	1,086	5,799
その他	1,448	2,006
営業外費用合計	4,674	9,610
経常利益	14,441	18,903
特別利益		
投資有価証券売却益	718	—
貸倒引当金戻入額	267	—
特別利益合計	986	—
特別損失		
固定資産除売却損	201	230
投資有価証券評価損	64	—
事業撤退損	123	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	119
特別損失合計	389	349
税金等調整前四半期純利益	15,037	18,553
法人税等	※2 5,786	※2 6,581
少数株主損益調整前四半期純利益	—	11,972
少数株主利益	207	649
四半期純利益	9,044	11,322

## 【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高	141,954	152,123
売上原価	91,208	99,641
売上総利益	50,746	52,482
販売費及び一般管理費	※1 31,080	※1 34,410
営業利益	19,666	18,071
営業外収益		
受取利息	16	40
受取配当金	205	332
その他	161	56
営業外収益合計	383	429
営業外費用		
支払利息	678	680
為替差損	759	1,426
その他	498	1,052
営業外費用合計	1,936	3,159
経常利益	18,113	15,341
特別利益		
投資有価証券売却益	12	—
特別利益合計	12	—
特別損失		
固定資産除売却損	44	111
投資有価証券評価損	20	—
特別損失合計	65	111
税金等調整前四半期純利益	18,060	15,229
法人税等	※2 4,667	※2 4,697
少数株主損益調整前四半期純利益	—	10,532
少数株主利益	418	421
四半期純利益	12,975	10,111

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	15,037	18,553
減価償却費	20,770	19,192
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△418	△123
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△408	△390
受取利息及び受取配当金	△876	△1,013
支払利息	2,138	1,804
為替差損益 (△は益)	△86	872
固定資産除売却損益 (△は益)	201	230
投資有価証券売却損益 (△は益)	△718	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	64	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△20,141	△25,982
仕入債務の増減額 (△は減少)	△4,756	7,238
たな卸資産の増減額 (△は増加)	17,223	456
その他	△6,300	640
小計	21,731	21,479
利息及び配当金の受取額	871	1,085
利息の支払額	△2,130	△1,846
法人税等の支払額	△1,703	△2,919
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,769	17,798
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	35	1
定期預金の預入による支出	△10	△3
有形固定資産の取得による支出	△15,684	△13,293
有形固定資産の売却による収入	185	153
無形固定資産の取得による支出	△304	△368
投資有価証券の取得による支出	△2,367	△172
投資有価証券の売却による収入	914	18
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△106	—
貸付けによる支出	△566	△347
貸付金の回収による収入	238	243
その他	△40	196
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,706	△13,571

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	14,193	8,558
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	△15,000	1,000
長期借入れによる収入	13,069	11,269
長期借入金の返済による支出	△13,963	△5,514
社債の償還による支出	—	△10,000
自己株式の純増減額 (△は増加)	△20	△14
配当金の支払額	△2,663	△3,351
その他	△629	1,521
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,014	3,468
現金及び現金同等物に係る換算差額	14	△898
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,936	6,797
現金及び現金同等物の期首残高	16,239	11,558
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	4,806
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 12,302	※1 23,163

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	
1	連結の範囲に関する事項の変更
(1)	連結の範囲の変更 (増加) LLC ヨコハマ R.P.Z. (重要性が増したことによる増加) (減少) 横浜ゴムMBW(株)等8社 (清算及び合併による減少)
(2)	変更後の連結子会社の数 120社
2	会計処理基準に関する事項の変更
	資産除去債務に関する会計基準の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 この変更による四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

【表示方法の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	
	(四半期連結損益計算書関係) 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用に伴い、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)	
	(四半期連結損益計算書関係) 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用に伴い、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。



## 【簡便な会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	
1	一般債権の貸倒見積高の算定方法 当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。
2	固定資産の減価償却費の算定方法 一部の連結子会社においては、固定資産の年度中の取得、売却または除却等の見積りを考慮した予算に基づく年間償却予定額を期間按分する方法によっております。
3	法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法 法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。 繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等に著しい変化がなく、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

## 【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

該当する事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
<p>※1 有形固定資産の減価償却累計額 410,928百万円</p> <p>2 債務保証 非連結子会社の金融機関からの借入れに対し、 債務保証を行っております。</p> <p>ヨコハマタイヤベトナムINC. 767 百万円 ワイ・ティー・ラバーCo., Ltd. 2,241 ヨコハマモールド(株) 290 <u>計 3,299</u></p>	<p>※1 有形固定資産の減価償却累計額 401,191百万円</p> <p>2 債務保証 非連結子会社の金融機関からの借入れに対し、 債務保証を行っております。</p> <p>ヨコハマタイヤベトナムINC. 859 百万円 ワイ・ティー・ラバーCo., Ltd. 712 ヨコハマモールド(株) 340 <u>計 1,912</u></p>

(四半期連結損益計算書関係)

第3四半期連結累計期間

前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
<p>※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は下記のとおりであります。</p> <p>販売手数料 9,948 百万円 運賃及び保管費 17,918 宣伝費及び拡販費 10,467 従業員給料手当 23,354 退職給付費用 1,315 減価償却費 2,163</p> <p>※2 法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示 しております。</p>	<p>※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は下記のとおりであります。</p> <p>販売手数料 12,979 百万円 運賃及び保管費 21,595 宣伝費及び拡販費 10,957 従業員給料手当 23,856 退職給付費用 1,192 減価償却費 1,982</p> <p>※2 法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示 しております。</p>

第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)
<p>※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は下記のとおりであります。</p> <p>販売手数料 3,687 百万円 運賃及び保管費 6,537 宣伝費及び拡販費 3,618 従業員給料手当 7,827 退職給付費用 438 減価償却費 825</p> <p>※2 法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示 しております。</p>	<p>※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は下記のとおりであります。</p> <p>販売手数料 5,559 百万円 運賃及び保管費 7,501 宣伝費及び拡販費 3,890 従業員給料手当 7,981 退職給付費用 384 減価償却費 605</p> <p>※2 法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示 しております。</p>

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年12月31日現在)	※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年12月31日現在)
現金及び預金勘定 12,312 百万円	現金及び預金勘定 23,166 百万円
預入期間が3か月を超える定期預金 △10	預入期間が3か月を超える定期預金 △3
<hr/>	<hr/>
現金及び現金同等物 12,302	現金及び現金同等物 23,163

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日至 平成22年12月31日)

1 発行済株式の種類及び総数

普通株式 342,598,162株

2 自己株式の種類及び株式数

普通株式 7,525,881株

3 新株予約権の四半期連結会計期間末残高

該当する事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	2,010	6	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金
平成22年11月1日 取締役会	普通株式	1,340	4	平成22年9月30日	平成22年11月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当する事項はありません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)

	タイヤ (百万円)	MB (百万円)	計 (百万円)	消 去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	116,806	25,148	141,954	—	141,954
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	15	2,508	2,524	(2,524)	—
計	116,821	27,657	144,479	(2,524)	141,954
営業利益	19,306	320	19,627	38	19,666

(注) 1. 事業区分は売上集計区分によるもので、主要事業としてのタイヤと非タイヤ事業からなるMBとしています。

2. 各事業の主な製品

事業区分	主要製品
タイヤ	乗用車用、トラック・バス用、小型トラック用、建設車両用、産業車両用 などの各種タイヤ・チューブ、アルミホイール、自動車関連用品
M B	コンベヤベルト、ゴム板、各種ホース、防舷材、オイルフェンス、マリンホース、型物、空気バネ、ハイウェイジョイント、橋梁用ゴム支承、ビル用免震積層ゴム、防水材、止水材、防音・防振商品、接着剤、シーリング材、スポーツ用品、航空機用燃料タンク、シール、音響材、プリプレグ、民間航空機用化粧室ユニット・飲料水タンク、各種ハニカム商品、金属ダクト、オイルタンク、断熱材、バルブ、継手、シーリングコンパウンド、Vバンドカップリング、フレックスカップリング、電磁波シールド材、情報処理サービス、不動産賃貸等

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	タイヤ (百万円)	MB (百万円)	計 (百万円)	消 去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	272,832	71,187	344,020	—	344,020
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	36	8,932	8,968	(8,968)	—
計	272,868	80,120	352,988	(8,968)	344,020
営業利益	16,759	495	17,254	56	17,311

(注) 1. 事業区分は売上集計区分によるもので、主要事業としてのタイヤと非タイヤ事業からなるMBとしています。

2. 各事業の主な製品

事業区分	主要製品
タイヤ	乗用車用、トラック・バス用、小型トラック用、建設車両用、産業車両用 などの各種タイヤ・チューブ、アルミホイール、自動車関連用品
M B	コンベヤベルト、ゴム板、各種ホース、防舷材、オイルフェンス、マリンホース、型物、空気バネ、ハイウェイジョイント、橋梁用ゴム支承、ビル用免震積層ゴム、防水材、止水材、防音・防振商品、接着剤、シーリング材、スポーツ用品、航空機用燃料タンク、シール、音響材、プリプレグ、民間航空機用化粧室ユニット・飲料水タンク、各種ハニカム商品、金属ダクト、オイルタンク、断熱材、バルブ、継手、シーリングコンパウンド、Vバンドカップリング、フレックスカップリング、電磁波シールド材、情報処理サービス、不動産賃貸等

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	アジア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消 去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	99,821	25,451	6,386	10,295	141,954	—	141,954
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	13,435	18	8,090	—	21,544	(21,544)	—
計	113,256	25,469	14,476	10,295	163,499	(21,544)	141,954
営業利益	16,064	1,436	1,508	410	19,419	246	19,666

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっています。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

- (1) 北 米……米国、カナダ
- (2) アジア……フィリピン、タイ、中国、台湾
- (3) その他……大洋州、欧州

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	アジア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消 去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	240,374	65,951	16,029	21,664	344,020	—	344,020
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	40,894	37	22,751	—	63,683	(63,683)	—
計	281,269	65,988	38,780	21,664	407,703	(63,683)	344,020
営業利益	16,158	535	1,985	355	19,034	(1,723)	17,311

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっています。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

- (1) 北 米……米国、カナダ
- (2) アジア……フィリピン、タイ、中国、台湾
- (3) その他……大洋州、欧州

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間(自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)

	北米	その他	計
I 海外売上高 (百万円)	25,819	31,513	57,333
II 連結売上高 (百万円)			141,954
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合 (%)	18.2	22.2	40.4

- (注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっています。  
 2. 各区分に属する主な国又は地域  
 (1) 北米……米国、カナダ  
 (2) その他……大洋州、欧州、アジア等  
 3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	北米	その他	計
I 海外売上高 (百万円)	69,035	78,451	147,486
II 連結売上高 (百万円)			344,020
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合 (%)	20.1	22.8	42.9

- (注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっています。  
 2. 各区分に属する主な国又は地域  
 (1) 北米……米国、カナダ  
 (2) その他……大洋州、欧州、アジア等  
 3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

## 【セグメント情報】

### 1 報告セグメントの概略

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会において経営資源の配分や業績の評価を行うために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別の事業部を置き、各事業部は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の総合的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業部別のセグメントから構成されており、主要な事業である「タイヤ事業」「工業品事業」を報告セグメントに分類しております。

#### 各報告セグメントに属する主要な製品

セグメント	主要製品
タイヤ	乗用車用、トラック・バス用、小型トラック用、建設車両用、産業車両用などの各種タイヤ・チューブ、アルミホイール、自動車関連用品
工業品	コンベヤベルト、ゴム板、各種ホース、防舷材、オイルフェンス、マリンホース、型物、空気バネ、ハイウェイジョイント、橋梁用ゴム支承、ビル用免震積層ゴム、防水材、止水材、防音・防振商品、接着剤、シーリング材

### 2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	タイヤ	工業品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	310,174	62,370	372,545	17,862	390,408	—	390,408
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,369	56	1,425	3,283	4,709	△ 4,709	—
計	311,544	62,427	373,971	21,146	395,117	△ 4,709	390,408
セグメント利益	23,157	2,128	25,285	1,072	26,357	△ 12	26,345

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは航空部品事業、スポーツ事業であります。

2. セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結会計期間(自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	タイヤ	工業品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	125,299	20,991	146,290	5,832	152,123	—	152,123
セグメント間の内部売上高 又は振替高	480	26	506	1,098	1,605	△ 1,605	—
計	125,779	21,017	146,797	6,931	153,729	△ 1,605	152,123
セグメント利益	17,058	555	17,614	460	18,075	△ 3	18,071

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは航空部品事業、スポーツ事業であります。

2. セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

### 3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当する事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。



(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(ストック・オプション等関係)

該当する事項はありません。

(企業結合等関係)

当第3四半期連結会計期間(自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)

共通支配下の取引等

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容、企業結合日、企業結合の法的形式、結合後企業の名称及び取引の目的

① 結合当事企業の名称及びその事業の内容

企業の名称：横浜ゴムMBE(株)等8社

事業の内容：各種工業品（ホース、建築用シーリング材、接着剤、コンベヤベルト、土木用品など）の販売

② 企業結合日

平成22年10月1日

③ 企業結合の法的形式

横浜ゴムMBE(株)（当社の連結子会社）を存続会社とする合併

④ 結合後企業の名称

横浜ゴムMBジャパン株式会社（当社の連結子会社）

⑤ その他取引の概要に関する事項

全国の工業品販売会社8社と横浜ゴム本社の工業品販売部門の一部機能を統合し、新たに横浜ゴムMBジャパン(株)を設立することで、営業機能の統合によるお客様対応力の充実、1社化による戦略性に優れた事業運営体制の確立、社内カンパニー制導入による地域密着型営業の増強など、抜本的な組織再編による国内市場の販売力強化を目的としています。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1株当たり純資産額 483円 85銭	1株当たり純資産額 475円 26銭

2. 1株当たり四半期純利益金額等

第3四半期連結累計期間

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額 26円 98銭	1株当たり四半期純利益金額 33円 79銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
四半期連結損益計算書上の 四半期純利益金額(百万円)	9,044	11,322
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	9,044	11,322
普通株式の期中平均株式数(千株)	335,178	335,089

第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額 38円 71銭	1株当たり四半期純利益金額 30円 18銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
四半期連結損益計算書上の 四半期純利益(百万円)	12,975	10,111
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	12,975	10,111
普通株式の期中平均株式数(千株)	335,167	335,080

(重要な後発事象)

該当する事項はありません。

(リース取引関係)

リース取引開始日が会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて処理を行っておりますが、当四半期連結会計期間におけるリース取引残高は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動はありません。

## 2 【その他】

第135期(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)中間配当については、平成22年11月1日開催の取締役会において、平成22年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議しました。

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| ① 配当金の総額             | 1,340百万円    |
| ② 1株当たりの金額           | 4円00銭       |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成22年11月30日 |

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年 2月12日

横浜ゴム株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 太田周二 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小林宏 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴木達也 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている横浜ゴム株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、横浜ゴム株式会社及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 2月14日

横浜ゴム株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 太田周二 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小林宏 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴木達也 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている横浜ゴム株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成22年10月1日から平成22年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、横浜ゴム株式会社及び連結子会社の平成22年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

**【表紙】**

**【提出書類】** 確認書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の8第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成23年2月14日

**【会社名】** 横浜ゴム株式会社

**【英訳名】** The Yokohama Rubber Company, Limited

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 南 雲 忠 信

**【最高財務責任者の役職氏名】** 該当する事項はありません。

**【本店の所在の場所】** 東京都港区新橋5丁目36番11号

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄3丁目8番20号)



## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長南雲忠信は、当社の第135期第3四半期(自平成22年10月1日至平成22年12月31日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

## 2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

